

## 北陸地域での地震分布(3) 1976-2008

## Seismicity of the Hokuriku Region(3) 1976-2008

# 竹内 文朗 [1]; 澁谷 拓郎 [2]; 松村 一男 [3]; 平野 憲雄 [4]; 西上 欽也 [2]; 岡本 拓夫 [5]

# Fumiaki Takeuchi[1]; Takuo Shibutani[2]; Kazuo Matsumura[3]; Norio Hirano[4]; Kin'ya Nishigami[2]; Takuo Okamoto[5]

[1] 京大・防災研・地震予知セ; [2] 京大・防災研; [3] なし; [4] 京大・防災研; [5] 福井高専

[1] RCEP, DPRI, Kyoto Univ.; [2] DPRI, Kyoto Univ.; [3] none; [4] DPRI, Kyoto Univ.; [5] FNCT

北陸域での地震活動の中で、b値の分布について1976年～2008年のデータを用いて調べた。このうち前期1976年1月～1997年9月は、京大防災研、京大阿武山観測所のデータに気象庁観測点のそれを加えて調べた。1997年10月以後2008年12月は気象庁一元化データを利用した。

ここで震源決定にはJHD法を用い、14層構造とし、やや範囲を広げて求めた8万余個の地震の内、震源決定制度がx、y軸方向に各1km以内、z軸方向には2km以内の精度をもつものを選んだ。こうして震央が35.0～36.5度、135.5～137.0度、深さ0～40kmに求めた48,910個の地震を使用した。

b値の場所的变化は、東西・南北に0.2度×0.2度の長方形内と、これと同じ形を0.05度ずらせた時の長方形内の各々の地震数の相関関数が0.8, 0.9以上で対応する範囲のものについてのみ調べた。

この地域の主な地震群は東尋坊から福井市へ至る福井地震断層、その南東の濃尾断層系、福井地震断層から南へ今庄を経て柳ヶ瀬断層へ至る域、一方琵琶湖をはさみ敦賀市の南から琵琶湖西岸域に達するものなど多くみられる。

こうして目立つ範囲を定め、その周辺0.2×0.2度の地域のb値を調べた。その結果、福一地震断層では、2000年～2006年ごろb値が下がり現在は元に戻っている。この傾向は敦賀市南方の琵琶湖北部、琵琶湖西岸にもうかがわれる。しかしながらこのような傾向が有意義なものか、もともと観測の安定度なども調べる必要がある。